

おわりに

林 春男（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長）

本日は朝早くからたくさんの方にご参加いただき、ありがとうございました。このデ活協議会も3回目ということで、さまざまなアングルのご紹介があったと思います。今日の筋書きは、地震のデータを共有するだけがデ活ではなく、建物の応答もあれば Web GIS もあり、事業継続を大きなキーワードにして、日本の取り組みが国際標準になることを目指すべきだということだったのではないかと思います。

外形的なことをご紹介すると、このプロジェクトの来年度予算は増額することが決定しました。通常、この手のプロジェクトではあり得ないことです。わずかではあるので、何かが本質的に変わるわけではありませんが、増額されたということは、文科省をはじめ、社会がこのプロジェクトに対し強い期待を抱いていることの表れだと思います。高い評価を得て、できれば来年度も増額を目指していければと思っていますので、引き続き皆さまにもご努力をお願い申し上げます。

最後に、この機会に宣伝させていただくと、2月13日に「減災の決め手となる行動防災学の構築」というタイトルのシンポジウムを東京大学の福武ラーニングシアターで開催しようと思っています。今日の話にも出ましたが、自然災害だけが災害ではなく、事故やテロといった脅威もどんどん大きくなっています。防災科学技術研究所は、実は法律には、自然災害をやる組織であり、他は関係ないというようなことが書いてあるのですが、災害が起きてしまった後は何が原因であっても同じだということで、文科省の許可を得て、事故やテロでよく使われる CBRN というハザードについて、もし災害は起きたときにどのように対応していくかということを経験的な枠組みで考えてきました。その成果の報告がメインです。また、これは基盤研究（S）で文科省から科研費を頂いていたので、その研究メンバーの成果も併せてご紹介したいと思います。今日、ご出席された皆さまには個別にインビテーションメールをお送りするので、ご関心があれば、ぜひご参加いただきたいというお願いをさせていただき、終わりの挨拶としたいと思います。今日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。